

職員の創意工夫を応援する制度（職員提案制度）

社会福祉法人 幕別真幸協会

住所/TEL 北海道中川郡幕別町字依田379 / 0155-56-4706

URL/E-mail <http://www.maku.or.jp/> / e-mail : maeda@maku.or.jp

経営理念 信頼・自立・貢献を礎に、一人ひとりを大切に、真心のこもったおもてなしで、21世紀に生きる法人を求め続けます。

1. 地域から信頼され愛される法人
2. ご利用者の満足を求める法人
3. 人と人とのふれ愛を求める法人
4. 生活利便の確信が得られる法人
5. 職員とご利用者が夢みる法人

事業内容及び定員

特別養護老人ホーム	(120名)	1 箇所
ショートステイサービス	(6名)	1 箇所
デイサービスセンター	(30名)	1 箇所
訪問入浴サービス		1 箇所
認知症グループホーム	(8名)	1 箇所
居宅介護支援事業所(支援センター)		1 箇所
無認可保育所	(10名)	1 箇所

収入
(法人全体)
平成20年度決算

①社会福祉事業	617,165,144円
②公益事業	18,572,702円
③収益事業	円
合計	635,737,846円

従業員数
(法人全体) 112名 (非常勤含む)

当面する経営課題

- (1) 「生活の場」としての施設環境の改善 (個室・ユニット化)
- (2) 地域に親しまれる施設づくり (地域との協働・貢献・還元事業)
- (3) 職員の育つ職場づくり (H21⇒研修元年としての位置づけ)
- (4) 高品質な介護サービスの提供 (人材確保・育成、処遇改善等)

発表する取組みに着手した理由、背景

(「告発型職場環境」から「提案型職場環境」を目指して制度化)

- (1) 「告発」から「提案」へ。疑問を感じたら“自分ならどうするか”“自分はどうか”という思考パターンをつくるのが「職員の創意工夫を応援する要綱(職員提案制度)」発想の原点である。
- (2) すなわち、介護現場が持つ(不満)という形を「提案」に変えることで「トップダウン(受動型職員)」から「ボトムアップ(能動型職員)」、ひいては法人全体の想い(理念・中長期計画・事業計画等)につながり、職員全体が逃げることなく、それまでの「脇役」から「主役」へ、そして“私は”“俺は”どのように法人経営、施設運営に関与できるかの「キッカケづくり」を目指しての制度化である。

発表する取組
みの現時点で
の効果

- (1) 「職員の智恵と意欲を引き出す工夫」「職員を輝かせる仕掛け」「声なき声を拾い上げ、改革の芽を育て上げる」など、これまで以上に職員と経営者、管理者と職員との距離感を縮めるなど、「風通しの良い職場環境づくり」に向けての効果、更には「絆」を深めるなどの効果が出来つつある。
- (2) 提案制度がスタートして3年5ヶ月、これまで28件（H18：11件、H19：8件、H20：5件、H21.8現在：4件）が提案され、このうち約9割以上の提案内容を実現するなど、制度化される前までの「職場内空気の流れ」が万全とは言えない環境を考えると、順調な滑り出しであると検証している。
- (3) 提案者の決定は「理事長専決事項」とし、採用された提案内容等は直近の理事会・評議員会に報告するため、役員等の職員に対する理解と評価が高まりつつある。
- (4) 毎月1回開催の「全体会議（全職員の前）」で、理事長から「表彰状と褒賞金」を受賞、その後、提案者自らが「提案に至る経緯等」について発表するため、緊張な中にも笑顔、さらには、他職員への刺激、自らの研鑽と自信を高めるキッカケづくりとなっている。

職員の創意工夫を応援する制度(提案制度)

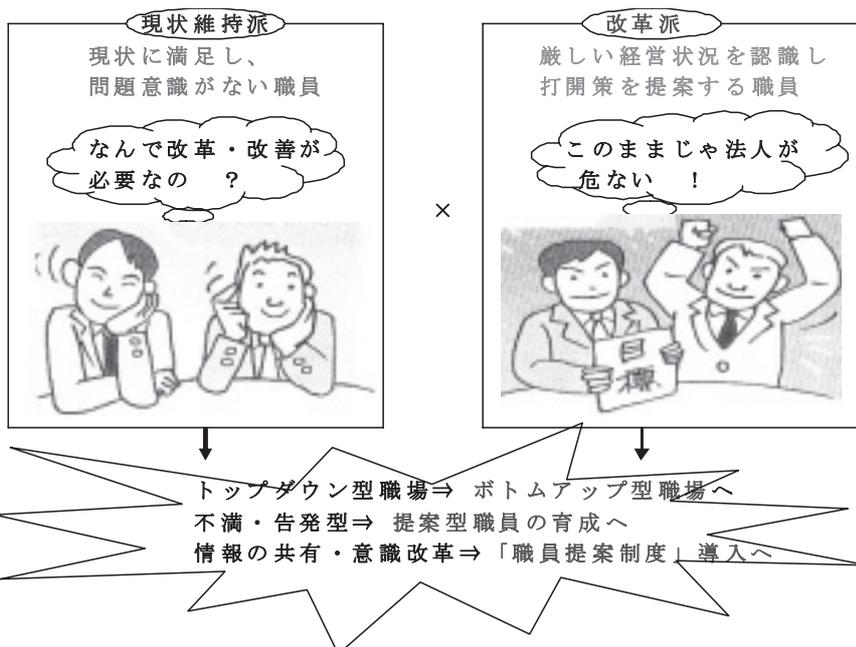
= 職員のやる気を120%にする動機付けへの第一歩 =

第28回全国社会福祉施設経営者大会「経営実践事例」

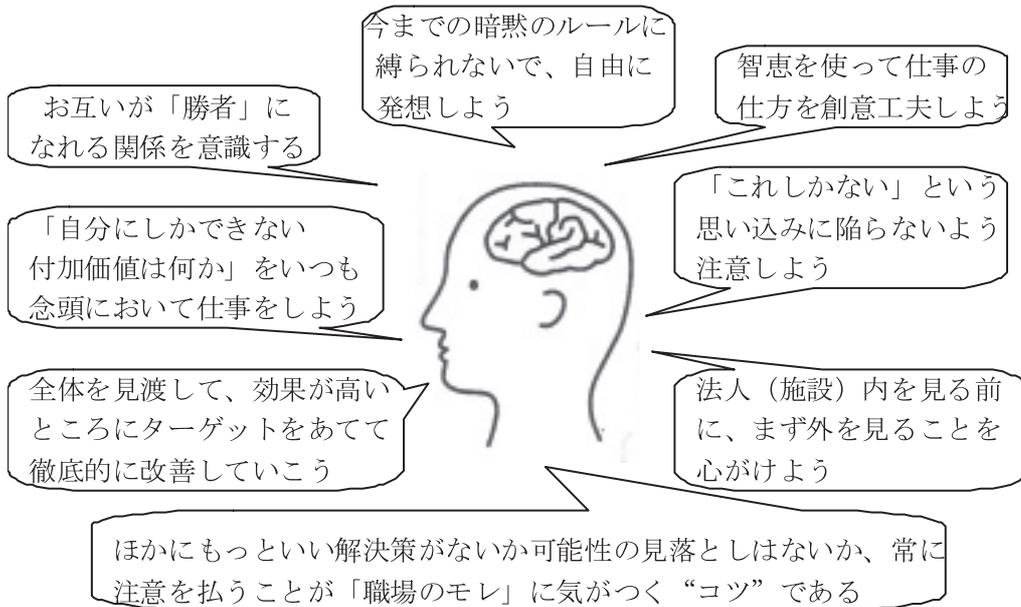
平成21年9月17日 京都府京都市「みやこめっせ」

社会福祉法人 幕別真幸協会 常務 澤田 治夫

提案制度導入の理由・背景等

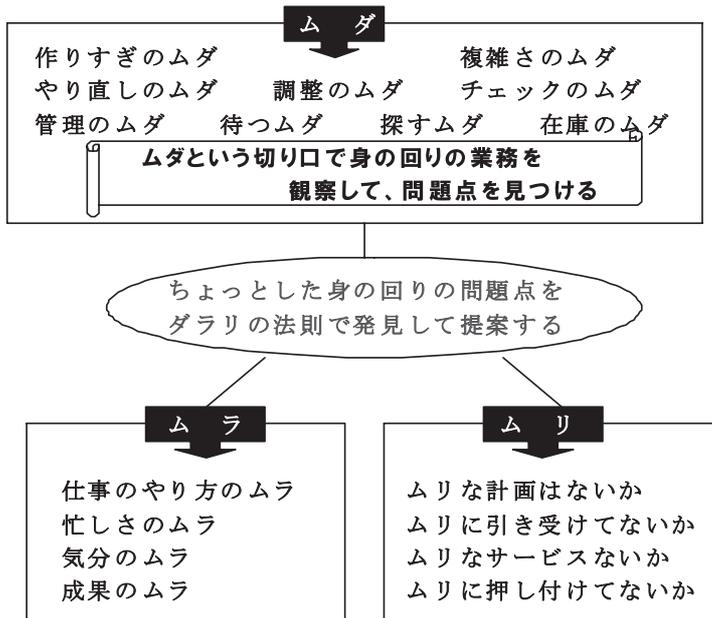


提案に対する合言葉



提案は「ダラリの法則」で考える

出典：戦略思考トレーニング（PHP研究所）



提案制度で「おいしさ倍増」(効果)



- 幕別真幸協会人材確保・育成方策
- ①産休・育休の取得促進(職場内理解の促進)
 - ②中高生職場体験事業の推進
 - ③福祉系高校生対象の有償ボランティア(アルバイト)の導入
 - ④1日理事長、1日施設長等体験事業
 - ⑤事業所内無認可保育所開設
 - ⑥職員提案制度の導入
 - ⑦人事考課制度&新給与制度導入
 - ⑧資格手当、オンコール体制手当、役職手当等の支給
 - ⑨職員能力開発支援金制度(貸付・助成事業)の導入
 - ⑩自主研修支援制度の導入
 - ⑪職員の人事交流に関する協定書の締結



職員提案制度の足跡(3年5ヶ月)

- 提案総件数 28件
(内訳) H18年度 11件
H19年度 8件
H20年度 5件
H21年度 4件



全体会議で発表する提案者の顔



提案制度の仕組み(要綱:約束事項)

第1条 (趣旨)

- ・ 提案(意見)は職員と法人が共有する
- ・ 理事長は単に提案の採否を決定する受身の姿勢から
- ・ 提案内容に「味付け」し、実現の道を切り拓く

第2条 (定義)

- ・ 提案は全職員を対象とする

第3条 (提案の種類及び内容)

- ・ 法人経営全般について提案を求める
- ・ 施設・在宅福祉サービスの改善・提言等
- ・ 労働・職場環境、業務・事務改善、施設改善
- ・ 介護・看護サービス改善など問題の大小に関係なく
- ・ 鳥の眼、虫の眼で日頃の考えを自由に提案する

第4条 (提案者)

- ・ 個人は勿論
- ・ グループの智恵を結集した提案
- ・ 複数の職場の職員がチームを組むのも自由

第5条 (提案の方法)

- ・ 提案書の様式はあえて定めず、表現も自由
- ・ 周囲への説得・共感の最も効果的な提案方法を使用

第6条 (協働の機会)

- ・ 職員が提案できる道筋を、常務、事務局長、施設長は協働で切り拓くこととし
- ・ 門前払い、提案させっぱなし、受け取りっぱなしは反則
- ・ やわらか頭 (職員) とコチコチ頭 (上司) の幸せな出逢いを演出することで
- ・ アイデア補強、絆が深まるとの信念の下、実施する

第7条 (提案の実施)

- ・ 組織の空気は「風通しの良さ」が原点
- ・ 案件又は提案者が望むときは「本部 (経営) 会議」で説明
- ・ すべての提案は「実施を原則」とし
- ・ 「後追いから先回り」「批判から提案」に向けて
- ・ 将来の種、改善のヒントにし、提案者の気持ちに応える
- ・ 法人本部会議、理事会等に提案し、内容の実現に向けて最大限努力することで、職員との信頼関係を構築する

第8条（実施の報告）

- ・ 提案者の決定は理事長「専決事項」
- ・ 提案内容等は、直近に召集する「理事会等」に報告し
- ・ 情報の共有化と提案者の努力を讃える場とする
- ・ 毎月開催する「全体会議」の場で、理事長から「表彰状」「褒賞金（1万円）」の授与
- ・ 提案者は「全体会議」で提案経緯等を全職員の前で発表
- ・ 他職員への刺激の場、OJTの場、自主研修の場とする

第9条（権利の帰属）

- ・ 福祉器具、施設改善等で画期的な研究開発等を想定
- ・ 「福祉界の青色ダイオード」が生まれたときの条文

職員名	表彰年月	提案名 / 内容
成田 利恵子	18年4月	カード立て(立てるんです) 【勝毎、介護新聞に掲載】
園部 ハツエ 門 富宰(共同)	18年5月	サンルーム計画
二川 享	18年5月	交通安全宣言の制定 【勝毎に掲載】
佐々木 美幸	18年5月	衛生管理確認日の制定
島尻 美樹子 看護師一同	18年7月	札幌内寮安全対策マニュアル作成
梅庭 澄美	18年7月	ご長寿いろは歌留多 【勝毎に掲載】
石川 真澄	18年7月	ボランティアロッカー
園部 ハツエ 介護士一同	18年8月	ふれあいデー実施
前田 純司	18年8月	情報システムの運用管理に関する取扱要領の制定
島尻 美樹子 看護師一同	18年8月	札幌内寮感染症対策マニュアル作成
所 哲也	18年11月	シンボルマークの制定について

11件

8件

職員名	表彰年月	提案名 / 内容	
安藤 千鶴子	19年5月	ぶらり外出ショップ ふれあいの家を喫茶店に見立てて、利用者に活用	
二川 享	19年5月	歓迎プレート 正面玄関にプレートを貼り、ショート利用者及びボランティアを歓迎する	
齊 栄子	19年8月	非常口スロープの手すり増設と段差補修	
園部 ハツエ	19年8月	NPO法人ひまわりの家との交流 障がい者とのふれあい交流の活発化させる	
前田 かちみ 村井 祐子	20年1月	札幌急変と緊急ケア	
前田 純司	20年1月	リースアップPCの再活用 感染症対策としてパソコンから音声メッセージで手洗い等勧める	【勝毎に掲載】
所 哲也	20年1月	写真でモザイク画 利用者と職員の「ふれあい」をテーマに、写真を組み合わせ	【勝毎に掲載】
前田 純司 所 哲也		長寿の歩みCD制作 利用者の古い写真を借り、歩んだ記録をCDにまとめる	【勝毎に掲載】

職員提案制度・表彰(H20)一覧表

5件

職員名	表彰年月	提案名 / 内容
石川 真澄	21年1月	フット乗せるんです・ハイ ダンボールを加工し、車椅子のフットレスに被せ、その箱に足を乗せることで、安心して食事をする事が出来る
北原 恵美子	21年1月	四季の写真作り (表彰) 行動力と利用者への夢作りから、暗いイメージの施設内に四季折々の作品を、業務多忙にもかかわらず制作し、利用者、職員はもとより家族、地域の人たちに「夢と感動」を与えている
業務課職員一同	21年1月	居宅「愛の劇場DVD」の制作 (表彰) 業務課職員一丸となって地域PR用資料、OJT資料として自らがシナリオから演出、出演まで法人30年の歴史上初めてのDVDを自主制作した
デイ職員一同	21年1月	手作りゲーム (表彰) デイ職員一丸となって様々な「手作りゲーム」を廃品利用等により安価で製作し、利用者を楽しませ評判がよい
鏡 由子	21年3月	姉妹法人の提案 社会福祉法人サンシャイン会との姉妹法人の提案をする

2006年(平成18年)4月5日(水曜日)

十勝毎日新聞

【特別】特別介護老人
ホーム札内寮(古澤悠照
院長)の寮母成田由緒子
さんが作ったカード立て

【解説】特別介護老人
ホーム札内寮(古澤悠照
院長)の寮母成田由緒子
さんが作ったカード立て

使ひ、1枚を5枚にして
もう1枚は10枚ほどの角
で折り付けた。成田さ
んは「2年前に発表した
試作品ですが、手作り感
がいいと言われ、そのま
まにしていました」と笑
顔で話す。制作の目的は
「右の人をトランプや花札
するのと同じく、片手でも
できる」と、札内寮を運営する
社会福祉法人鶴別町福祉協
会(秋田県鹿角市)が全
員導入。経営で悩んでい
るとなら別荘内のことなら
と一息ほかにアイデアを交
渉している。(成田真)

寮母の視点で第1号

職員提案
制度

成田さんのカード立て

カード立てと職員提案制度の表彰状を手にする成田さん

提案事例





テニゴルフ(機能回復&スポーツ)

H19(2007)6~「職員提案制度」実施





23





25

食でめぐる旅・日本一周

H19(2007)6~「職員提案制度」実施







シンボルマークの制定

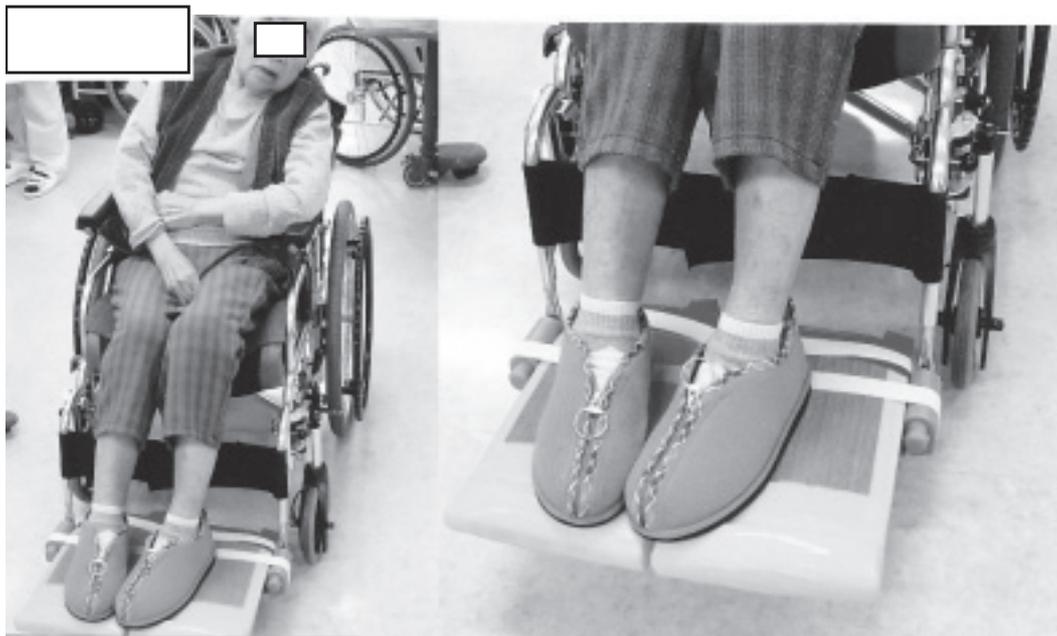
H18(2006)11~「職員提案制度」

H20(2008)8.21 制定



- (1) テーマを「人よし、水よし、空気よし」それに加えて「緑よし」とする。
- (2) 中央の3本のラインは、日高の山並みとマクウンベツ（アイヌ語で「山際を流れる川・後川」を意味するように、十勝川、札内川、猿別川、途別川）を示し、札内寮の頭文字「S」を表わしている。
- (3) の青は「水と空気」、オレンジは「人の温もり、地域の温もり」、緑は「自然の豊かさ」を示し、テーマ「人よし、水よし、空気よし」、それに加えて「緑よし」を表現している。
- (4) は「真実・親身・信頼」の頭文字を表わす
- (5) の内側の は「人と人とが手を取り合う姿」「寄り添い、支え合う姿」「人と人とのつながりをイメージし、
- (6) 幕別真幸協会の頭文字「M」と地域の「架け橋」となることを表現している。
- (7) 幕別真幸協会（緑色）の文字は、広大で緑の香り漂う十勝平野を示し、幸齢者とあなたの出逢いを結ぶ「和と輪」「出会いと出逢い」を意味している。

「フット～ト乗せるんです・ハイ」



「四季の写真作り」





